

群馬女短大 ○伊藤隆子  
山梨県立女短大 小菅啓子

東京家政学院大家政 富田弘美  
共立女大家政 小林茂雄

＜目的＞ファッションに関する情報や物品が容易に手に入る今日、女子中学・高校生のファッション意識を明らかにするために、本報では女子中学・高校生向けのファッション雑誌にある代表的なスタイル写真から、スタイルイメージを測定した。さらに、第1報のファッション意識の因子分析をもとに被験者を層別し、彼女たちのスタイルイメージとファッション知識の関係について考察した。

＜方法＞調査対象者及び調査時期は第1報と同様である。服装スタイルのイメージは、ファッション雑誌から代表的なものを6種類抜粋し、それらについてSD評価（16形容詞対、4段階尺度）を行った。次に、第1報のファッション意識の因子分析で抽出されたおしやれに関する因子に着目し、被験者層を因子得点の高・中・低の3グループに分け、6種類の服装スタイルについてSD評定平均値を層別ごとに求めて、これを観測回数として因子分析を行った。

＜結果＞因子分析によりファッション感、カジュアル感、自己表現の3つの基本的因子が抽出された（固有値1.0以上、バリマックス回転、累積因子寄与率は中学96.5%、高校98.0%）。各因子の因子得点の差から考察すると、高校生の方がおしやれ感覚を持ちはじめている傾向にある。服装スタイル別では、中学生はジーンズに対してファッション感の因子得点が高く、高校生はスーツに対して自己表現の因子得点が高かった。また、ファッション知識に関しては、ファッション用語、ブランド名について「知らない」と回答した中学生がそれぞれ2.6%、9.0%、高校生は0%であり、知識量は同年の男子生徒より上まわっていることが明らかになった。